

みんなの輪

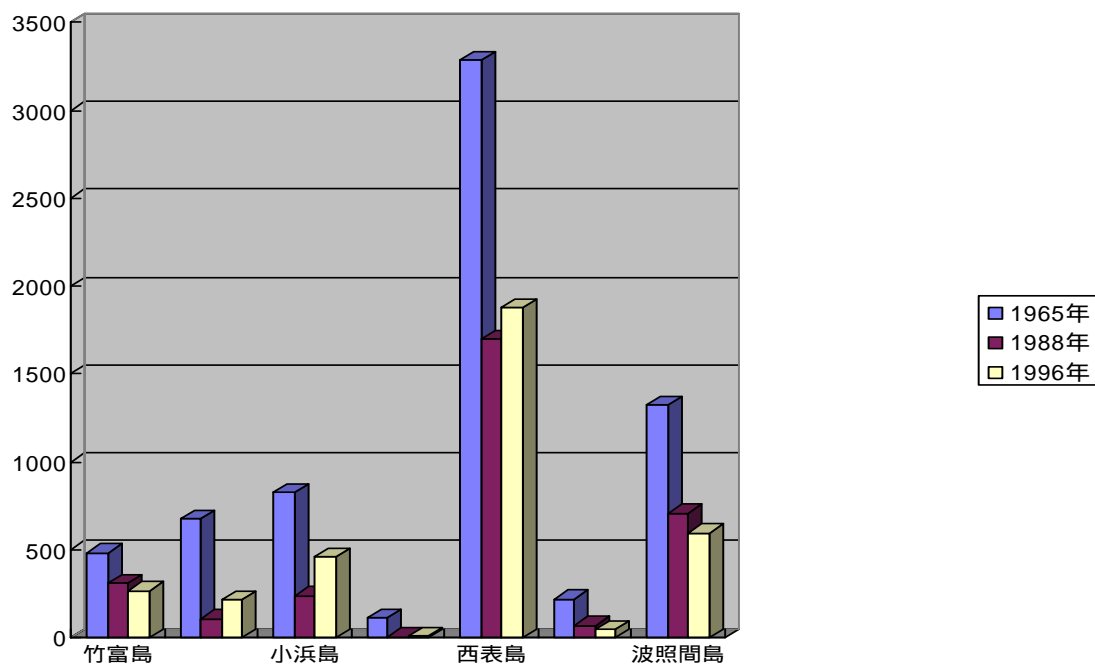
1. わたしたちの住んでいる島



やってみよう

自分の住んでいる島の人口は、お父さん、お母さんの子どものころとあなたの生まれたころと現在とを比べて増えたでしょうか。それとも、減ったでしょうか。グラフをみて考えてみましょう。

()



考えてみよう

どうして、増えたり減ったりしたのでしょうか。お家の人に聞いて発表しましょう。また、その頃の様子も聞いてみましょう。



考えてみよう

わたしたちの住んでいる島は、たえず変化しています。もし、あなたが大きくなって学校に行くために一度島を出たとします。そして、また島に帰ろうとしたとき島に人がいなくなっていました。さて、このとき、あなたならふるさとでくらしませんか。それとも、他の場所でくらしませんか。考えてみましょう。

2. 人がいなくなる

わたしたちの住んでいる島から、人がいなくなることは、大変です。

しかし、10年前まで竹富町に人が5人しか住んでいない島がありました。それが新城島です。

新城島は、上地（かみじ）島と、下地島の2つの小さな島から、なりたっています。

これは新城島（上地島）の写真です。



（里井洋一 1996 年撮影）

新城島出身のおじさんのはなし

むかしは、この島にも人がたくさんすんでいたんだよ。そして、みんなで協力してがんばっていたんだ。でもね、島では作物を育てるのが難しかったんだ。なぜかというとな、新城島の土地は、せっかいがんで 10 cm もほると、かたい岩ばんだから、作物は育ちにくいんだよ。そこで、土地のないところで作物を植えるために、昔から生活の知恵として、「焼畑農業」をしながら、一度にあわ、豆類、イモの種をまいていたんだよ。

そして、米は西表島の大原にわたって、田をたがやしていたんだ。魚はね、魚をとっても、電気が使えないから魚を冷やす道具がなくてね、すぐにいたんでしまうから、売ることができなかったんだよ。それで、魚はたべるぶんしかとらななかったんだ。だから、その日の食べ物を手にするだけで大変だったんだ。

このような理由で、水と土地をもとめて人々の大原へのいじゅうがはじまったんだ。そののち、戦争がおき、戦争がおわると日本はお金がないと何にも買えない時代がきて、新城島にはお金のはいる仕事がなかったから、この島で生活するのは苦しくなっていたんだよ。だから、今度は仕事と土地をもとめて人々は島を出て行ってしまった。そして、昭和 50 年（1975 年）学校もとうとう廃校となって、島には子どもがいなくなってしまうんだよ。でもね、今は、電気も、水も、食べ物もあるんだ。この島にないのは人だけだよ。



考えてみよう

おじさんのはなしを聞いて、新城島がどんな島になっているのか、絵をかいて、想像してみましょう。

次の写真は、現在の新城（上地島）です。下の表をみて、気づいたことを書いてみましょう。

()



(里井洋一 1996 年撮影)

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
人口	8人	7人	7人	6人	6人	4人	4人	4人
せたい数	5	5	5	4	4	3	4	4

3. 島に人があつまる

新城島には、年に何度か島を訪れる人の数が増えるときがあります。それは、祭りのときで、島の出身者、島民、観光客、をあわせると400人をこえることもあります。

新城島出身のおじさんの話

祭りはね、新城島の人々にとっては、「心のささえ」になっているんだよ。「祭りがあるからこそ新城がある」といってもよいくらい、祭りは大切なものなんだ。

近ごろは、新城島を一度出た人たちが老後をふるさとですごそうともどってきたり、生活にゆとりのできた人が祭りのとき、寝とまりできるように家を建てたから、家も人もふえてきているんだよ。

だから、いまからはね、島や祭りを守っていくためには島に人がすんでいることが大切なんだ。



やってみよう

あなたの住んでいるところには、どんな祭りがあるでしょうか。また、祭り以外にみんなで行うものは何があるでしょうか。地域のお年よりなどに聞いて発表しましょう。



考えてみよう

このような行事をおこなうにはどんなことが必要でしょうか。

このように、わたしたちの生活は地域の人びととのきずなによって、守られ、作られています。地域のむすびつきを大切にすることで、島も、人もいきいきとくらしつづけられるのです。

これからも、島も人もいきいきとするために、わたしたちは何をしなければならないでしょうか。考えて、まわりの人とはなしあってみましょう。